

# 誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在

江戸川区立一之江小学校

全国学力・学習状況調査 A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	70.0%	70.0%
令和 7 年度の目標	65.0%	65.0%
令和 6 年度の結果	59.7%	41.9%
令和 5 年度の結果	67.0%	65.4%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果 A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	59.1%	44.0%
第 5 学年	48.5%	60.0%
第 4 学年	70.7%	74.7%
第 3 学年	46.2%	53.9%



## 目標達成に向けた取組

	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一之江学び方スタンダード」の取組を全学級の経営の基盤とし、学校全体として揺らぎのない指導を実施する。</li> <li>「めあて」と「振り返り」をセットにした授業を実施し、児童に学びを実感させる。</li> <li>ハンドサインを活用し、児童全員の学習参加を促す。</li> <li>教科担任制については、5・6年生の全学級と3・4年生の可能な範囲で教師の専門性を生かした授業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一之江学び方スタンダード」の取組を通して学びに向かう環境を整え、基礎・基本の定着と学習意欲の向上を図る。</li> <li>習熟の時間を授業の中で取り、基礎・基本の確実な定着につなげる。</li> <li>GIGAスクール構想の趣旨に即し、ICTを効果的に活用した授業を全教科等で実施する。</li> <li>児童一人一人の学びを確実に把握し評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末を効果的に活用し、学校の学習と家庭の学習の一体化を図る授業の工夫を積極的に行う。</li> <li>朝読書や読書の時間を確保するとともに、毎学期読書週間を設定し、児童の読書への意欲を喚起し、主体的な読書活動を推進する。また、図書のバーコード化により、本を借りやすい環境を整備する。</li> </ul>
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解を指導の基盤とし、信頼関係を構築しながら毎日の指導に当たる。</li> <li>1人1台端末の効果的な活用を通じた授業改善を進める。</li> <li>児童の発言や態度、ノートやタブレットの学習記録を基に一人一人の学習状況を把握し適切な手立てを講じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から個々の学習の定着状況の把握に努める。その上で、電子ドリル等を活用し、一人一人の学びに適した課題に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>放課後補習教室の担当者が中心となり、参加児童の学習状況に応じて、担任と講師が連絡を取り合い、効果的な学習となるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「江戸川っ子sutdy week」と関連付け、家庭学習における電子ドリルの活用を促進する。</li> <li>学期に一度、2週間の読書週間を設定し、全児童が読書紹介カードを作成し、おすすめ図書を紹介し合う交流活動を実施する。また、長期休業には、「読書科コンクール」の取組を推進するなどして読書の習慣化を図る。これらの取組の中で個別の支援を実施する。</li> </ul>
成果指標	<p>R6年度全国学力状況調査 国語の平均正答率は72%だった。D層が13.3%と昨年より少なくなり、A層が40%以上という結果だった。算数は、平均正答率が59%と昨年に比べて低く、区や都の平均を下回っていた。これまで課題になっていた図形の領域では、区の平均を上回っていた。</p>	<p>R6年度ベーシックドリル 平均正答率が60%を下回っていたことを踏まえ、R7年度の目標を平均正答率70%とする。 R6年度学習定着度調査 4・5年生の平均正答率が70%を上回っていたことを踏まえ、R7年度の目標を平均正答率80%を上回ることにする。</p>	<p>R6年度の学校評価の保護者アンケートで「お子さんは、毎日家庭学習に取り組んでいる」という設問に対し、前回よりも肯定的な評価が増え、約80%であったことを踏まえ、R7年度の目標を85%とする。</p>